

## 石油燃焼機器の煙突・排気筒・給排気筒の設置について

石油燃焼機器の煙突・排気筒・給排気筒の設置は、ペレットストーブの設置に際して参考になると思いますので、その一部をご紹介します。

### ・分類

煙 突：機器からの排気温度が 260 を超えるものに用いる。

排 気 筒：機器からの排気温度が 260 以下のものに用いる。

給排気筒：外側が給気筒で、内側が排気筒となっているもの。

### ・煙突及び排気筒は、耐熱・耐食性に優れていなければならない。

樹脂塗装鉄板製の煙突及び排気筒は、耐食性は問題ないが、熱に対して弱いので、排気温度が 200 を超えると表面処理皮膜が破壊され、耐久性が落ちるので、使用しない。

### ・煙突と可燃物との離隔距離は、原則として、機器から 180 cm 以内の部分は 45 cm 以上、180 cm を超える部分は 15 cm 以上とする。ただし、断熱施工をした場合は、この限りでない。

### ・煙突の壁貫通部には、めがね石を設置する。

### ・排気筒と可燃物との離隔距離は、原則として、排気筒の半径以上とする。

### ・排気筒の壁貫通部には、原則として、めがね石又はガラリ付めがね石を設置する。

### ・給排気筒（トップの排ガス出口部分を除く）と可燃物との離隔距離に関して、規定はない。めがね石の設置も省略することができる。

### ・煙突及び排気筒の横引き部分は、できるだけ短くし、垂れ下がり部がなく、先上がり勾配としなければならない。

横引き部分が長かったり、垂れ下がり部があると抵抗が増し、点火当初ドラフトが押さえられて排ガスが排出されにくくなる。また、排ガス温度が低下し、ドレンが生じ、外気温度によってドレンが凍結するおそれがある。

### ・給排気筒トップは、屋外に対し、先下がり勾配となるよう設置しなければならない。

### ・給排気筒トップは、周辺建築物の開口部から上方 60 cm 以上、側方 15 cm 以上離さなければならない。

給排気筒トップの排ガス出口に開口部があると排ガスが室内に流入するおそれがあるため。

上記については、財団法人日本石油燃焼機器保守協会（<http://www.h2.dion.ne.jp/~nenshou/>）が実施する石油機器技術管理講習でより詳しく学ぶことができます。